
教育講演

座長： 渡邊 諭美

近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門 医学部講師

演題名

乳がん領域における Patient advocacy：
BC-PAP の取り組みとワーキング活動を通しての学び

永橋 昌幸

兵庫医科大学 乳腺・内分泌外科 准教授

本講演では、乳がん領域における Patient advocacy（患者支援活動）として、日本乳癌学会の取り組みである BC-PAP についてご紹介し、患者・市民参画活動について皆さまと共に考えたいと思います。日本乳癌学会の患者・市民参画プログラム、通称「BC-PAP（ビーシー・パップ：Breast Cancer Patients and Advocates Program）」は、乳がん体験者やご家族など一般の方々を対象に、乳がん治療に関する基礎から最新情報までを分かりやすく提供し、患者さん・ご家族と医療者が乳がん診療の課題について議論し、交流を深める場を提供することを目的として発足しました。2021 年に日本乳癌学会 PAL ワーキンググループにおいて BC-PAP の名称が提案され、理事会の承認を得て、2022 年 7 月に開催された第 30 回日本乳癌学会学術集会で正式に BC-PAP セッションが開始されました。BC-PAP セッションでは、患者委員が中心となり、医療者メンバーがサポートする形で、患者のためのプログラムが企画されました。その内容は、ガイドラインの読み方、乳がんに関する基礎知識、最新治療法のレクチャーやホットトピックスに関するトークセッションなど多岐に渡り、2 日間のプログラムを通して、患者の目線から求められている情報の提供が行われました。その後、BC-PAP セッションは毎年開催されるようになり、2025 年までに計 4 回開催されています。毎年、様々なトピックスをとりあげながら、内容の充実度も年々増えています。最近では、PPI（Patient and Public Involvement）を取り上げ、臨床試験への参加などについて患者さんと共に議論するワークショップも開催しました。これらの活動を通じて、患者・市民の乳がん診療への参画を促進し、より良い医療の実現を目指しています。BC-PAP ワーキング委員の一員として、これまでの活動を振り返り、その学びを共有するとともに、今後の展望についても考えていきたいと思っています。